

## 第 15 回 中山間地域振興特別委員会記録

令和元年 5 月 28 日(火)

10 時 ~ 12 時 35 分

全 員 協 議 会 室

【出席者】 飛野委員長 布施副委員長 三浦委員 西川委員 川上委員 柳楽委員  
串崎委員 上野委員 岡本委員 芦谷委員 永見委員

【議長団】

【委員外議員】 道下議員 小川議員

【執行部】 防災安全課長 政策企画課長 まちづくり推進課長 商工労働課  
農林振興課長 維持管理課長 金城支所防災自治課長  
金城支所産業建設課長 旭支所防災自治課長 旭支所産業建設課長  
弥栄支所防災自治課長 弥栄支所産業建設課長 三隅支所防災自治課長  
三隅支所産業建設課長 政策企画課企画係専門企画員

【事務局】 古森局長 下間係長

---

### 議 題

1. 「交通・通信・情報の確保対策」について  
(担当課との意見交換)

2. 行政視察について

3. その他

○次回開催 6 月 12 日(水) 13 時 00 分

飛野委員長

おはようございます。ただいまから委員会を開催します。今日は 10 名の出席で定足数に達していますので、会議に入らせていただきます。

### 議題 1. 「交通・通信・情報の確保対策」について

飛野委員長

この特別委員会が発足したのは一昨年の 12 月でした。そして 1 つ目のテーマについて約 1 年 3 ヶ月程かけて、集落機能の維持について提言を 3 月にさせていただきました。

引き続き 2 つ目の「交通・通信・情報の確保対策」について進めることになりました。今日は意見交換をして、この問題に取り組もうということで、非常にお忙しい中でしたが、53 項目が委員から出てきました。それに丁寧にお答えいただいたことを厚くお礼申し上げます。

今日ご説明いただくにおいて 11 名並んでスタートできると思っています。

以前のテーマでほぼ全体の特別委員会の予算に至るまでの部分までできていますので、この 2 つ目のテーマについてはできれば 9 月議会で提言できたらと思っています。今回は大変ご無理を申し上げたことをお礼申し上げます。

早速ですが議題 1 の意見交換をして参りたいと思います。

進め方は(1)の 1 から 13 までの一括説明をしていただき、資料等の不明な点について委員から確認の質問する形を考えています。

委員の皆さんにお諮りします。本日は数値等基礎的なものの確認が主であることを皆さんに再確認させていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

( 「はい」という声あり )

ではそのようにさせていただきます。

委員の皆さんから多くの資料要望がありましたが、時間の都合もあるので重複部分はまとめて説明をお願いします。なお、項目数の関係で(1)の次に(3)を行い、あとは順番に行いたいと考えています。たくさんの項目があります。大きく分けて 1 と 3、あとは 2、4 と続きますが、1 項目説明と意見交換を含めて 15 分から 20 分を 1 つの目安で一応進めていけたらと考えています。スムーズに進めていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

早速(1)について説明をお願いします。まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長

( 以下、資料をもとに説明 )

飛野委員長

商工労働課長

商工労働課長

( 以下、資料をもとに説明 )

飛野委員長

まちづくり推進課長

まちづくり推進課長

( 以下、資料をもとに説明 )

飛野委員長

丁寧な説明をありがとうございました。委員から質疑ございますか。

西川委員	運転免許返納者に敬老乗車券を渡す事業で、事業に申請された方の人数を把握されておられますが、実際に返納された全数は把握されていないのでしょうか。
まちづくり推進課長	全体の返納者数は運転免許センターから情報を頂いていますのでご紹介いたします。70歳以上の返納者は、30年度が264人、29年度が294人、28年度が249人です。
三浦委員	公共交通再編計画基本方針3ですが、ICTを利用したシステムの導入を検討というところで、先ほどの課長のご説明の中に、こうした実証実験の受入れが難しいというお話がありました。難しい理由を教えてください。
まちづくり推進課長	確かに、既に国で実証実験受入れの募集案内等も始まっているように伺っています。市でいただいている情報によると実証実験だけでなく、将来的に自動運転システム等を導入する予定がある自治体を対象に実証実験の申請を受け付けることになっていて、現時点で浜田市には自動運転や配車システムを入れるといった具体的な方針は出ていないので、実証実験に手を挙げる段階に至っていない現実があるため、難しいという言い方をさせてもらった。
三浦委員	大きな方針が出なければ基本方針3の「具体的な事業着手」はできないということでしょうか。
まちづくり推進課長	いまのは国の動きの中での話です。市ではそれとは別に島根県立大学との連携や、市内企業との連携で国の補助を使いながらやる方法がないかも併せて検討しています。色んな角度から考えていきたいです。
三浦委員	県立大学や地元企業との協力による実証実験を検討していくとおっしゃいましたが、実際に自動運転等を検討する際に今の地元企業さんの持っておられるテクノロジーと、県大さんが具体的に自動運転についてテクニカルに検証されていることは、あまり具体的に出てきてないような気がします。実際に地元企業や県大と協力して、特定の事業者さんはいくつかあるのですか。県大ならこの先生のこの研究、というような。
まちづくり推進課長	県立大学とは公共交通の任意の研究会で、先生お二人と一緒に、公共交通全般について考えていくために定期的な研究会を行っています。企業については今の段階ではまだ具体的にはございません。
川上委員	自治会輸送の件ですが、羽原地区は平成21年から始まっていますが、これを見る限り利用者数は前からあまり変わっていませんか。利用者数が28年以降からしか出ていないけど、それ以前はどうなっていたか分かりますか。
まちづくり推進課長	羽原地区の27年以前は資料がありませんので、後程回答させていただいてよろしいですか。
川上委員	分かりました。これも既に10年目を迎えていますので車の消耗も激しくなっていると思いますが、貸与されている車はいつを目途に交換や廃止になっているのでしょうか。
まちづくり推進課長	現在は車両不具合や運行に支障があるというお話は伺っていないの

で、車両交換等の計画はありません。ただ、今後 10 年経過するので地元と相談しながら対応を検討したいです。運転手確保についても羽原地区については深刻な問題だと聞いているので、併せて考えたいです。

川上委員

自治会輸送は羽原地区の方が輸送されていると思いますが、戸数も人も少ないので先が見えそうな気がするのですが、それは如何でしょうか。

まちづくり推進課長

ご指摘のように羽原地区は今 5 世帯くらいだったかと思います。特定の方の利用に特化している運行状況になっているのは事実なので、利用拡大は非常に厳しいかと思っています。

飛野委員長

では先ほどの 27 年度の数値については提出いただけますか。

まちづくり推進課長

はい。

飛野委員長

よろしく申し上げます。他に。

布施副委員長

8、9、10 についてまとめて聞きます。今の売上不振や後継者、移動販売車、地区によって小売店がなくなったから移動販売車でカバーすることがあると思いますが、言われたように弥栄では杵束、三隅では白砂と黒沢がカバーされていません。店があるからカバーされていないのか、要望はあるが行かれていないのか、細かい意見の分析はされていますか。

商工労働課長

市で把握されている 3 件については市の事業者支援として助成させていただいた移動販売になります。実際されている移動販売車の方々にお話を聞いて、各事業者さんがそれぞれ運営していく中でお話を聞きながらエリアを決めて回っておられる状況なので、予算として自分らの出来る範囲でされているので、全てが把握できないと考えています。

布施副委員長

言われるように色々と把握できてないのかもしれませんが、浜田市内へ出て買い物したい、近くのどこどこに行きたいという需要があれば、公共交通やタクシーを使うことも事実あります。中山間地域におけるこういう問題点をしっかりやろうとすると、来られない人にいかに効率よく提供していくか。そのためには移動販売車が必要になってくるのではと思っています。収支バランスや人件費がかさむから広げられないとのことですが、年を得るごとに必要な部分になってくると思いますので、数字を分析されて、これ以上の数字を提案していただきたいと思いますが、どうでしょうか。

商工労働課長

商工労働課はどちらかというと普段は事業者目線で仕事をしているところもあり、なかなかそこまで把握できないのが事実です。それは逆に庁内全体での体制で把握・協力し合いながらできることを考えていきたいと思っています。

飛野委員長

他にないですか。

( 「なし」という声あり )

では引き続き 3 番。「携帯電話・ラジオの不感地域の解消」の今後についてお願いします。政策企画課長。

政策企画課長

( 以下、資料をもとに説明 )

飛野委員長

防災安全課長。

防災安全課長

( 以下、資料をもとに説明 )

飛野委員長	政策企画課長。
政策企画課長	( 以下、資料をもとに説明 )
飛野委員長	防災安全課長。
防災安全課長	( 以下、資料をもとに説明 )
飛野委員長	政策企画課長。
政策企画課長	( 以下、資料をもとに説明 )
飛野委員長	まちづくり推進課長。
まちづくり推進課長	( 以下、資料をもとに説明 )
飛野委員長	説明が終わりました。この件について委員から質疑がありますか。
岡本委員	NHKラジオについて質問を出しています。先ほどの説明の中で、NHKが来年中継局を云々という話がありました。私の認識では城山に高いポールが立っています。あれがNHKアナログ放送だと思っていますが、このたび公表されている場所はそこなのか、あるいは、通常私たちが考えるのは大麻山にテレビ等々の施設がありますが、そこなのかお尋ねします。
政策企画課長	中継局の場所ですが、詳しい理由は伺っていませんが、M波の中継局がある場所についてはおっしゃるように城山にあると認識しています。今回整備されるのは大麻山であると、地図でポイントされているとのことなので、既存のNHK施設もございますが、恐らく出力の関係で、今回整備されるのはFM波なので大麻山を整備されると私どもは考えています。
岡本委員	質問の10番でラジオの不感地域ということに関連してお話しているのが、調査については義務付けられていないと答弁がありましたが、そこで集約して終わりなのでしょうか。地区の実態を調べて欲しい、実態はどうなのか、今後の対応計画の有無を聞きたいのですが。
政策企画課長	地区の実態ですが、これまでも調査を考えていましたが、まずもってNHKで中継局を整備されるとのことなので、整備後の実測調査をもってどのくらいの不感地域が出るかが明らかになると思っています。どういった対応が必要になるか明らかになると考えています。
岡本委員	恐らくと言われました。私は当然、私どもが質問しているのだからNHKに対して今後建てられた後に情報提供があるのかは、確認すべきだと考えますが、お考えをお尋ねします。
政策企画課長	私どももそのように努めたいと考えています。
川上委員	現在各地区に戸別受信機が設置されていますが、弥栄が740基となっています。戸数が670くらいだったと思うので、戸別受信機の数が多い気がするのですが、何か理由がありますか。
防災安全課長	細かい理由までは把握していませんが、恐らく公共施設等に入っているものも含めての数字だと思われます。
川上委員	デジタル化への検討について、改修費が19億円となっています。これは戸別受信機何台分くらいを想定していますか。
防災安全課長	今あるものを全部更新する考え方です。6062台分です。

川上委員 現在浜田自治区においては戸別受信機の要望がかなりの数出ています。この点の配慮はどのような形で考えていますか。

防災安全課長 議会の一般質問でもご質問いただくところです。今の所は戸別受信機に変わる多様な情報手段を提供させていただいているとご答弁しています。

三浦委員 私の事前の質問の仕方が悪かったのですが、お伺いしたいことがあります。災害時の情報取得を今後どうやって充実させていくか、もう少し具体的に聞けば良かったです。例えば防災無線に代わるようなインターネットラジオといった、別のインフラの検討をされているか。併せて聞いておきたいのが、ラジオや携帯電話のカバーエリアもそうですがインターネット環境のカバーエリアについてももしお答えしていただけるなら聞きたいのと、なければまた教えていただけますか。

防災安全課長 いわゆる情報手段ということです。現在、うちと政策企画課と話しているのが、ケーブルテレビに個別端末を設置できるという話もありましたので、これも検討材料には入っています。戸別受信機を全部更新するとかかなりの金額になります。金城・旭・弥栄・三隅自治区はアナログ受信機のためデジタル化すると使えなくなります。ただデジタル化は絶対避けて通れないことを考えると、戸別受信機に代わる戸別配布できるものという検討はしています。

三浦委員 それはスマートフォンやiPad等の端末を受信機に見立てて、インターネットのインフラを使うというところまでは、検証されてないということでしょうか。

防災安全課長 スマホやタブレットまでは検討していません。

三浦委員 これも僕の書き方が悪かったのですが、テクノロジー情報というのはいわゆるオープンデータの話で、要は行政が持っているデータ、交通量だとか乗り合いタクシーの利用率といったデータを持っておられますよね、そういうものを積極的に公開していく事で、例えば民間事業者さんがそういうデータを使って新しいサービスを検証するとか、色んな効果があると思います。総務省でもオープンデータの活用は推奨されていますし、浜田市もそういったことを意識しながら持つておられる公共データをオープンにしていく、いわゆるオープンデータの活用、ビッグデータの活用を、情報へのアクセスという分野で聞いてみたかったのです。

政策企画課長 全庁的にオープンデータで提供していく基盤整備はまだ整っていない状況です。国県からもそのような仕組みをこれから整えていくと伺っていますが、県においてはオープンデータのカタログサイトというものをこの度ウェブ上で公開されています。浜田市においてもまだこれからですが、AEDの設置場所というものも掲載を始めたところです。これは、まだ情報量としては少ないと考えるので、これから充実させていく必要があるという問題意識は持っています。

飛野委員長 他によろしいですか。

( 「なし」という声あり )

では3番はこれで終わります。次へ行く前に、1時間経過していますのでここで5分間の休憩を取りたいと思います。

[ 11時 18分 休憩 ]

[ 11時 25分 再開 ]

飛野委員長 会議を再開します。先ほどまちづくり推進課長からありました27年度の数値の件、申し出がありましたので回答をお願いします。

まちづくり推進課長 (1)①の関係の資料です。羽原地区の27年度以前の利用者数ですが、資料はまた後程提供させていただきますが、ポイントだけ口頭でご説明いたします。

27年度の利用者数が278人、26年度が328人、25年度が370、年々減少傾向で推移しています。

飛野委員長 ありがとうございます。

ではあとは2、4、5と続けてまいります。1、3が大きな項目だったので、あとは何とかできるだけ短時間で、できれば午前中で目途を付けたいと思います。

(2)についてです。維持管理課長。

維持管理課長 (以下、資料をもとに説明)

飛野委員長 農林振興課長。

農林振興課長 (以下、資料をもとに説明)

飛野委員長 説明が終わりました。委員から質疑があればお願いします。

川上委員 弥栄の除雪は空き家を考えながらという話ですが、それは空き家調査が出来ているから、そういうことができるのかと思うが、その辺はどうでしょうか。

飛野委員長 弥栄支所産業建設課長。

弥栄産業建設課長 毎年市民福祉課等から情報もいただきながら、あとは業者のオペさんともお話をさせていただく中で、空き家状況も毎年変わるので調査して、1年全然帰れないのか、それとも毎月定期的に帰っているのか。定期的に帰っている家なら除雪を行うといった対応をしています。

飛野委員長 他。

(「なし」という声あり)

では(4)について。維持管理課長。

維持管理課長 (以下、資料をもとに説明)

飛野委員長 説明が終わりました。委員から意見はございますか。

川上委員 季節別の発注状況について、金城の繰り越しも含むことになっていますが、繰越がたくさんあったからだと思いが繰越を除けばどうなったか分かりませんか。

維持管理課長 私の記憶でいくと繰越は3000万程度あり、1000万程度が発注、あとは繰越だったと記憶しています。

飛野委員長 (5)公共交通を直接担う運転手の現象についてお願いします。まちづく

まちづくり推進課長  
飛野委員長

り推進課長。  
( 以下、資料をもとに説明 )  
説明が終わりました。委員から質問はありますか。  
( 「なし」という声あり )  
では(6)供賄道路の交差、車の回転場の必要性について。維持管理課長。

維持管理課長  
飛野委員長

( 以下、資料をもとに説明 )  
説明が終わりました。委員から質問はありますか。  
( 「なし」という声あり )  
(7)高校への通学手段について。まちづくり推進課長。

まちづくり推進課長  
飛野委員長

( 以下、資料をもとに説明 )  
説明が終わりました。委員から質問はありますか。  
( 「なし」という声あり )

川上委員

水産高校の自転車は 55 パーセントで約半数とのことですが、何か理由がありますか。

まちづくり推進課長  
飛野委員長

他校と比べて多いですが具体的な理由までは把握していません。他に。  
( 「なし」という声あり )  
以上で議題 1 を終了しますが、全体について何かございますか。  
( 「なし」という声あり )  
では本日いただいた資料並びに説明内容は、今後の協議の参考とさせていただきます。執行部の皆さんありがとうございます。以上でご退席いただいて結構です。お疲れさまでした。

[ 12 時 00 分執行部退席 ]

飛野委員長

委員の皆さんにお諮りします。このまま延長して議題 2 に入りたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。  
( 「はい」という声あり )  
ではそのように進めさせていただきます。

## 議題 2. 行政視察について

飛野委員長

先進地視察についてです。今年度中にテーマ 2 と 3 の視察の可能性があるので、日帰りや宿泊するかも含めて視察先と日程の検討に入りたいと思います。まず前回柳楽委員にお願いした、高梁市のポケベル電波の活用についてお伺いいたします。

柳楽委員

高梁市で利用されているポケベル電波を使った防災ラジオは、東京テレコムが提供されているとのことで、いくつかの自治体で導入しておられますが、まだそこまで多くはない状況です。岡山県内でも高梁市だけが導入されています。この電波が他に比べても屋内・屋外ですごく受信状態が良いらしく、既存の戸別受信機に比べても良いのではないかと考えます。価格ですが、2 万円以内くらいで導入できるらしく、これが整



備単価ということで、戸別受信機の整備単価がだいたい10万円以上になるところを、ポケベル電波防災ラジオは整備単価が2万円以下という情報があります。26の自治体が活用しているとのことで、17万台出ているそうです。この資料でも1500台を購入して希望者に貸与されている状況とのことです。

飛野委員長

ありがとうございました。続いて他の候補地について事務局から説明をいただきたいと思います。

古森局長

中山間地域研究センターに良い所があれば問い合わせをしておいたと副委員長からありましたので、その報告をさせていただきます。

7つの項目のうち1番目の「買い物・通勤手段の確保」と4番目の「除雪等を担う建設事業所の減少・縮小」についての情報のみでしたが、(1)から(4)で山口市、長門市、高知県梶原町、雲南市波多コミュニティ協議会、ここでそれぞれ地域スーパーなり交通空白地域の対象の対応に取り組まれています。NPO法人で自治体が直接しておられるわけではないですが、そこも視察に行かれるならどうですかと情報提供がありました。

飛野委員長

ありがとうございました。皆さんからご意見をいただきたいと思います。

川上委員

以前言ったように、ポケベル電波を使つての防災無線は確かに1台2万くらいで出来るけど、維持管理費や基本料等色々あるので、一度現地確認させていただければと思います。

三浦委員

東京テレコムさんはポケベルサービスを止めたのではなかったですか。

柳楽委員

従来のポケベル部分は利用者減少によりやめるのですが、防災関係のものは今後力を入れていかれる状況かどうかっています。

三浦委員

防災無線の事業はそのままやっていくというのはニュースで見ましたが、その防災無線事業でもポケベルを活用しているのですか。

柳楽委員

ここに資料があるのですが。機械は何種類かあるのではないですか。

三浦委員

非常に関心があるのですが、それと併せて少しご検討いただきたいのは、スマートフォン等を使った防災無線に代わるインフラを提供している事例もあつたりして、ポケベルを貸与・提供するとなると維持管理費がコストとしてどうしてもかかってきますが、スマホ等を活用するとなると配布・提供というより、自身が持っているものを使って防災無線機能を作っていく話なので、コスト的には安くつくと思うので、比較検討する価値はあるのではと個人的に思っています。視察に行くのであれば、別の手法でのサービス提供も是非検討していただきたいと思います。

もう1つ、中山間地域研究センターに尋ねられた中に、買い物・通院手段の確保として色んな自治体輸送の事例が出ていますが、自動運転等の実証実験が全国で行われていて、しかし市の方針がないから実証実験ができないという回答だったと思います。であれば、身の回りで実証実験をしているケースに我々は全く触れておらず、もしそれが本当に機能しているのなら執行部にもっと検討したらどうかと提案もできる。全く

検討してない状況の中でそういうのもあっても良いのかなと思っています。全国でも事例を探せば、道の駅を拠点にルートを作って自動運転をしている地域が結構あるので。今実際にどうやって交通手段を確保するかという今の状態の話と、将来的な話と両方必要だと思うので、それについても検討していただけると嬉しいです。

布施副委員長

三浦委員、柳楽委員、川上委員の言われることは非常によく分かります。前回三浦委員はご欠席だったと思いますが、この特別委員会の視察先範囲は本来日帰りが基本で、特別な取り組みがあれば本当は行くべき所もあると思っています。皆さんご存知のように総務文教委員会でも公共交通の政策提言をされるという話を聞いていますし、今日出た資料も共有していかないといけない部分があると思います。そういったことを含めながら、今回は柳楽委員のポケベル周波数を活用する防災緊急連絡をいかしたらどうかという提案が前回あって、それに対して戸別受信機よりは安価で済んで全体的に色々良いのでどうか、という提案があつて今回の流れです。三浦委員が言われたように、公共交通部分にAIを使つての取組みは今始まったばかりですが、そういった所を見るのも良いという思いはあります。ただ、予算も限られているので身近な中四国関係で、まず行ける所へ行ってみようということで提案させていただいたのが、第2のテーマです。ご理解いただけただけでしょうか。

岡本委員

確認しますが、特別委員会は日帰りだというのは本当でしょうか。広報広聴が特別委員会の扱いになっていた時には、1泊2日という話だったので。今は日帰りでない駄目なのですか。

古森局長

予算的には1泊2日も可能な予算を見ているのですが、全委員会が全員の予算確保は難しい。本当は予算の話をしてはいけないかもしれませんが、理窟上は1泊可能としています。ただ、予算的には日帰りも考えてもらいたいという思いはあります。

飛野委員長

最後、分かりましたか。その部分ですが、できるだけ、議長肝いりでもありますし、一番新しくできたのがこの中山間地の特別委員会という意味でも、しっかり交渉して1泊の予算を取っていただきたいと思います。

布施副委員長

1泊2日でも良いですが、中身なのです。実りある所は日帰りでも良いですが、1泊2日にしなければいけないという意味合いではないのですが。高梁市をやった場合、中山間地域研究センターに聞くとあとの視察先としてベストなのが山口であったり、高知県梶原町とのことですが、梶原に行くには1泊2日。視察候補地によって違ってきますので、東北にそういうものがあれば1泊2日でも十分可能ですが、実際にそれが可能かどうかです。費用との関係も十分出てきますし、そこを踏まえての提案なのですが。

古森局長

旅費としては公用車1泊が最大です。通常の常任委員会は額が決まっていますが。公用車での1泊が最大です。

西川委員

視察先の件ですが、三浦さんの意見の、ポケベルよりもスマートフォ

ンというのも良いと思いますが、浜田市もデジタル化が避けて通れない、今のシステムを変えなければいけない時期に来ているので、当面の実用性があるポケベルをまずは見たいなと思います。スマートフォンはその次の世代、今の50代、60代くらいまでが80代くらいになった時のシステムとして使えるかもしれないです。喫緊のところではポケベルを見たいなと個人的に思います。

次世代モビリティの実証実験については、もし行ける範囲にあるのなら実際の取組みや経緯も見たいと思います。

飛野委員長

他にありますか。

( 「なし」という声あり )

一応、今のご意見のまとめとしてはポケベルもしっかり勉強したい、次世代モビリティについても検討する。あとは梶原も内容が濃い部分もあるかと思いますが、その3つの絡みの中で、場合によっては1泊になるか日帰りになるかです。皆さんの意見がまとまっていませんが、相手があることでもありますし日程のこともありますので、一応その3つくらいを頭に置いて正副委員長で先に検討させていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

( 「はい」という声あり )

日程ですが、とりあえずこちらで考えているのは、9月まであまり時間がないので、議会が終わった7月15日の週はどうかと考えています。15日が海の日で祭日ですが、16、17、18、19。それを一応敲き台として検討してみたいと思います。よろしいでしょうか。

( 「はい」という声あり )

では事務局にはこれで調整をお願いしたいと思います。

### 議題3. その他

飛野委員長

その他、皆さんから何かございますか。ございませんか。

( 「なし」という声あり )

では次回開催日を決めたいと思います。もし9月に提言するとなるとあまり時間がございません。議会中ではありますが、26日の議案質疑終了後に第16回中山間地の会議を開きたいと考えますがいかがでしょうか。

( 以下、自由討議 )

布施副委員長

今日は執行部から具体的な数字を聞きました。それについて手当出来ている部分と出来てない部分がある程度明確化されたし、考え方もまだ聞きたい部分があると思うので、特別委員会として提言に繋げられるように、「公共交通・通信・情報の確保対策」についての論議を進めたらどうかという思いがあるのですが。

飛野委員長

皆さん、副委員長のご意見についてどうでしょうか。

古森局長

議題としては今日のレジュメと同じで、交通・通信・情報の確保の対策について。今日は担当課との意見交換になっていますが、委員だけの

飛野委員長

会という形で良いと思います。

内容について整理すると、今日は執行部との意見交換でしたが同じ項目に則って委員間で論議したいと思います。それでよろしいでしょうか。

( 「はい」という声あり )

ではその内容で進めさせていただきます。事務局はそれで問題ないですか。

( 「はい」という声あり )

次回委員会開催は6月12日の13時から行います。第4委員会室です。以上で全ての内容が終わりました。これで解散してよろしいでしょうか。

( 「はい」という声あり )

どうもご苦労様でした。

( 閉 議 12 時 35 分 )

浜田市議会委員会条例第65条第1項の規定により委員会記録を作成する。

中山間地域振興特別委員会 委員長 飛 野 弘 二 ⑩